

<p><b>スクール・ミッション</b> (本校の存在意義や社会的役割を目指すべき学校像)</p>	<p>より良い未来を創るため、生涯学び続け、社会に貢献し、広く活躍する人材を育成する学校 学校内外での主体的な学びの中で絶えず自分の道を模索し、進化するように努め、将来を切り拓く気概と思いやりの心を持って、他者と協働しながら困難な課題を解決できる人材を育成する。</p>	
<p><b>スクール・ポリシー</b> (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>○幅広い知識と教養、高い学力を持つ生徒の育成 ○社会の課題について当事者意識を持ち、他者と協働して課題解決に取り組む生徒の育成 ○良きリーダー、良きフォロワーとして失敗を恐れず挑戦する生徒の育成</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>○生徒の「高い志」の進路実現を支援する質の高い授業 ○他者と協働して事に当たる力を身に付け、深く考える力を伸ばす総合的な探究の時間 ○自尊感情を高め、他者との協働を軸に、実践的な生きる力を養う学校行事や部活動</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>○基本的な生活習慣と学習習慣を身に付け、十分な学力を持った人 ○目標に対し、周囲の人と協力して最後までやり通そうとする意欲がある人 ○知的好奇心が高く、様々なことに挑戦しようとする人</p>

学校運営計画(4月)			
学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>昨年度は「自己実現から未来の創造者へ」のローガンの下、生徒がやりたいことを自分で見つけ、やるべきことを考え、実際に行動するかや、自ら考え行動して、責任を持って未来を創造していくとする力を育むため、生徒の「伴行者」としての支援を充実させるとともに、失敗を恐れず積極的に挑戦する生徒の育成に努めた。 今年度は、スクールミッション、学校経営方針の下、「倉高ONLY ONE 計画」(「絶えず自分の道を模索し、自己実現に努め、将来を切り拓く気概と他者への思いやりの心を持つ生徒」を育てるための教育活動)の確実な遂行によって、「主体性」「行動力」「思いやり」を育てる教育活動を推進する。</p>	<p>不断の授業改善と1人1台タブレット端末の有効活用による高い学力と幅広い知識・教養の涵養</p>	<p>○生徒が主体的に学びに向かう質の高い授業の実践 ○観点別学習状況の評価の確実な実践と指導と評価の一体化 ○一斉課題の在り方の検証・改善を通じた個別最適な学びの推進</p>	<p><b>A</b></p>
	<p>「社会に開かれた教育課程」の実現と探究活動の充実</p>	<p>○総合的な探究の時間の充実と取組の継続 ○教科の授業における探究活動の充実</p>	
	<p>心の教育の推進による自尊感情、自己肯定感、失敗を恐れない態度、粘り強さ、たくましさの育成</p>	<p>○主体的に判断し、行動できる生徒の育成 ○自信と誇りを持ち充足感のある学校生活を送る生徒の育成</p>	
	<p>学びあい支えあう教員集団づくり</p>	<p>○常に学び、学びあう教員集団を目指す ○情熱に溢れるあたたかい教員集団を目指す</p>	
	<p>世界に通用するグローバル人材の育成</p>	<p>○言語や文化、価値観の違いを越えて多様性を認める態度の育成 ○高いコミュニケーション能力の育成</p>	

自己評価				学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見
<p>学習指導 (勉学)</p>	<p>授業改善の推進と教科指導力の向上</p>	<p>・教員相互の授業参観や研究授業、学習評価を通して自らの授業を振り返り、教科指導の改善を図る。</p>	<p>授業アンケート</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>学年進行に合わせて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度のいずれの項目も評価が高くなっている。タブレットを用いた学習については、効果がある、どちらかと言えばあると答えた生徒が1年生で93%、2年生で88%となっている。今後、各教科でその活用頻度を上げる工夫が必要である。</p>	<p>・今後もタブレットの活用により学習効果が上がる指導方法の研究を進めていただきたい。また、先生方がタブレットを使った指導の準備をしやすい環境を整備し、授業改善に繋げていただきたい。 ・生徒の主体性を重視する教育が成果をあげていると感じる。 ・小中からICTに慣れてきている生徒が多い中、しっかりと活用・効果があると評価されている先生方が素晴らしい。授業改善や指導力向上とともに、先生方の負担軽減につなげることを期待する。</p>
		<p>・1人1台端末の活用方法を共有し、ICTの利活用を推進する。アプリケーションの導入も検討する。</p>		<p>B</p>			
		<p>・個別最適な学びを推進するため、個々の生徒の学習状況に応じた課題の在り方を検討する。</p>		<p>A</p>			
	<p>主体的・対話的で深い学びの実現</p>	<p>・生徒自身が学びを振り返り、課題発見や学習改善、発展的内容へと向かう一連のPDCAサイクルを確立させる。</p>	<p>授業アンケート</p>	<p>A</p>			
		<p>・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることができる生徒の育成を目指す。</p>		<p>A</p>			
		<p>・生徒が見通しを持って学習できるよう、一人一人に対するきめ細やかな指導を行う。</p>		<p>A</p>			

進路指導 (創造)	探究活動を活用した 進路学習の充実	・探究活動を通じて生徒の進路に関する知識と進路実現への意欲を高め、キャリア教育の充実を図る。	探究活動に係る振り返り 参加生徒アンケート	A	A	A	1年生では、地元企業等の実地調査を通して、地域や国の課題を見出し、興味・関心の幅を広げることができた。この活動は、2年次の個別またはグループでの多様な探究活動にもつながっている。進路講演会では、他校生徒との交流まで広げ、互いに刺激し合いながら、自身の将来を主体的に考える姿勢を養うことができた。	A	・地元企業との連携を深めながらキャリア教育を行うことにより、生徒の勤労観・職業観育成や進路意識向上が期待できるので、今後も推進して欲しい。
		・進路講演会、校外研修などへの参加を奨励し、生徒が刺激を受け高い志を抱くようにする。		A					・合格者数を上げていくことは大切であるが、生徒の一人一人への支援の充実も願っていたい。
		・大学や地域、他校と連携した取組をさらに推進し、指導方法や評価方法について研究を進める。		A					・視野を広げるカリキュラムが素晴らしい。
	希望進路の実現	・個人面談や明談講習、志望校および学力レベルに応じた個別指導を充実させることで、生徒一人一人の自主的な学習を促す。	学習実態調査	A	A		学習実態調査の結果をもとに、担任・副担任・教科担当者による面談が積極的に行われた。志望大学については、東大・京大・九大の志望者が1年生から3年生に上るにつれて大きく減少する傾向にある。生徒の志望意欲を下げない3年間を見通した指導に向けて、引き続き改善・充実を図る。	A	・将来の具体的な目標を設定することで、今後の進路を明確にすることができる。探究活動を通して、目標達成に向けた志をしっかりと立ててほしいと思う。
		・各期で東大5名、京大7名、九大60名、医学部医学科20名合格という目標の達成に向け、3年間を見通して支援する。		B					
		・進学テストの作問やICT教材の活用を通して、教科内で難関大学・学部の入試問題研究を行うとともに教科指導力の向上を図る。		A					
生徒指導 (規律・勤労・敬愛)	規範意識の向上	・基本的な生活習慣を確立させ、出席率99%以上、出席皆勤者50%以上を目指す。	学校生活アンケート いじめアンケート(毎月1回実施) ・家庭チェックリスト(学期1回実施)	B	A	A	生徒会を中心として、校内外のルールやマナーについて注意喚起することができている。校則等も時代に合った形へと改定を進めている。その中で、生徒一人一人が自覚を持ち、他者を理解して行動する態度が身につけてきている。多様な価値観を尊重できる人間力をさらに向上させたい。	A	・靴や靴などの校則の変更は、生徒の実態に合った形でよかったのではないかと考えている。今後も時代に応じた適切な生徒指導をお願いしたい。
		・校内外におけるマナーの向上について授業、HR、講演会等で指導し、社会生活における規範意識向上の重要性を理解させる。		A					
		・自他ともに価値ある存在として尊重し、人を思いやる心豊かな生徒を育成する。		A					
	部活動・生徒会活動の 活性化	・勉学と部活動、生徒会活動との両立を目指し、家庭学習時間を確保するために19時30分完全下校を堅持する。	文化祭後アンケート	A	A		数値目標は達成できなかったが、多くの部活動が活躍した。特に野球部、ラグビー部、科学部、生物部、放送部は、県の上位成績を取った。その結果、校内の活気が増しつつある。	A	・生徒会活動が活発に行われており、社会から求められる資質・能力が十分に育まれていると考える。今後も活性化に努めていきたい。
		・部活動の一層の活性化に努め、文化部・体育部合わせて九州大会8部、全国大会5部の出場を目標とする。		B					
		・部活動・生徒会活動等を通じて、主体的に考え、組織的に取り組む態度を養い、リーダーシップ、フォローシップを育成する。		A					
	生徒の状況に即した 指導の充実	・生徒の状況を的確に把握し、必要に応じて迅速に家庭や関係機関と連携して支援や指導を組織的に行う。	学校生活アンケート いじめアンケート(毎月1回実施) ・家庭チェックリスト(学期1回実施)	A	A		時代に即した生徒指導、生徒支援に学校全体で取り組んだ。SNSの利用法などについては、組織的に対応することが必要である。全職員が生徒とのコミュニケーションを大切に、細かな変化にも注意しながら関係を深めることにより、いじめのない学校生活を築いている。	A	・部活動の活躍が素晴らしい。文武両道が体現されており、先方や生徒達の努力の結果であり誇らしい。現在、中学校の部活動の縮小や廃止が進んでおり、今後は部活動への加入者の確保が課題となると考える。
		・学校いじめ防止基本方針に基づく5項目の取組を実施し、いじめ防止対策委員会が評価及び今後の課題の検討をする。		A					
		・人権教育と道徳教育の一層の充実を図り、生徒の人間力の向上を目指す。		A					
組織体制	学びあい支えあう、向上心を持った 教員集団の創造	・教育活動全般で教員間の協働を推進することで、「チーム小倉」として組織力の向上を図る。	校務運営委員に対するアンケート	A	A	A	学年や分掌、教科の組織力だけでなく、学校全体の組織力の向上を目指す。今後も引き続き業務の見直しに努め、生徒の指導や授業準備に教職員が十分に時間が使える環境を作っていく。また、諸会議で検討した内容等については職員全体でしっかりと情報を共有する。	A	・教育活動を点検・評価して、改善を進めているのはいい。先方と生徒との関わりが一層充実するようしていきたい。
		・会議や研修会を通じて生徒情報を共有することで、個々の生徒に応じた適切な指導を組織的に行う。		A					・対話することが効率を向上させることもある。
		・業務の見直しやICTの利活用により働き方改革を推進し、生徒の指導に全力で取り組める職場環境づくりに努める。		B					・先生方の負担が減り、正しくゆとりを持つことは、教育活動の質の向上につながる。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT環境の整備・充実と、授業でのICTの利活用の推進により、授業改善を進める。</li> <li>・各期で東大5名、京大7名、九大60名、医学部医学科20名合格という目標の達成に向け、3年間を見通した生徒支援を行う。</li> <li>・生徒が大学進学にかかる費用や奨学金制度などについて学ぶ場を適切に設定する。</li> <li>・スクールミッション(本校の社会的役割)に対する生徒の認識を深め、日頃の生活や将来の自分の在り方を考えさせる。</li> <li>・業務の分担・削減・効率化により、生徒の指導や授業の準備に教職員が十分な時間を使える環境を作っていく。</li> </ul>
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的に厳しい家庭への支援について</li> <li>・本校の社会的役割について</li> </ul>	